



恋ごころ

un film de
Jacques Rivette
ジャック・リヴェット監督作品

ジャンヌ・バリバル Jeanne Balibar、セルジオ・カステリット Sergio Castellitto、ジャック・ボナフェ Jacques Bonnaffe
マリアンヌ・バスレール Marianne Basler、エレヌ・ド・フージュロル Hélène de Fougerolles、ブリュノ・トデスキニ Bruno Todeschini
カトリーヌ・ルーヴェル Catherine Rouvel、クロード・ベリ Claude Berri
監督・脚本=ジャック・リヴェット
脚本・台詞=バスカル・ボニゼール、クリスティーン・ローラン 劇中劇原作=ピランデッロ
撮影=ウィリアム・リュブチャンスキー 録音=フロリアン・エイデンベス
編集=ニコール・リュブチャンスキー 音楽=フォーレ
歌=＜センツァ・フィーネ "SENZA FINE"＞ ベギー・リー
美術=マニュ・ド・ショヴィニ 衣装=ローランス・ストゥリュズ、クリスティーン・ローラン
製作=マルティヌ・マリニャク

2001年仏伊独合作フランス映画

製作=PIERRE GRISE PRODUCTIONS、FRANCE 2 CINEMA、VM PRODUCTIONS、MIKADO、KINOWELT

製作参加=CANAL+、COFIMAGE 12、GIMAGES 4、CENTRE NATIONAL DE LA CINEMATOGRAPHIE

製作協力=EURIMAGE、LA PROCIREP/カラー、1x1.85、DTSステレオ、ドルビーSR

©2001 PIERRE GRISE PRODUCTIONS・FRANCE 2 CINEMA・VM PRODUCTIONS・MIKADO・KINOWELT

2001年カンヌ映画祭正式出品作品

2001年ニューヨーク映画祭オープニング特別招待作品

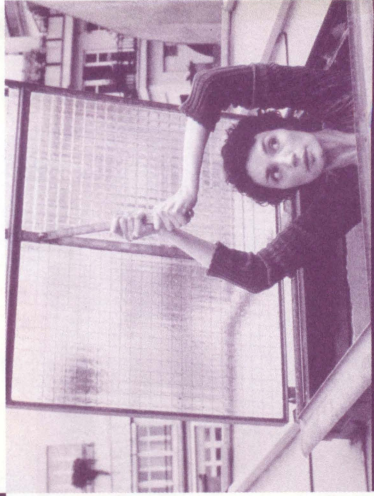
フランス映画社配給 パウ・シリーズ作品 共同提供=フランス映画社 シネフィル・イマジカ www.bowjapan.com

子供ごころの・・・大人の恋

記録=フランス映画社
提供=フランス映画社
協賛=フランス大使館

恋ごころ
un film de
Jacques Rivette
ジャック・リヴェット監督作品

恋ごころ



至感感いっぱいのエンディング、 2001年カンヌ映画祭最高の ヌタンディンゲ・オーヴェーション

恋ごころは繊細に、そして時に思いがけない激しさで訪れる。そんな魔物のような恋ごころが、夏の夜でカミーユを中心とする6人の男女のドラマを生み出して、たまらないユエモアで展開しながら、後半ではサスペンスをもはらんで、最終一気に奇蹟のハッピーエンディングに上昇する。ベキエーリーの甘い歌声の余韻のなか、2001年カンヌ映画祭の満席の観客は至福感につつまれて、ジャック・リヴェット監督の新しい傑作に10分を超えるヌタンディンゲ・オーヴェーションを贈った。ロインツのカミーユは3年前に去ったパリに、イタリヤからピラネツォの<未知の女>を演じる舞台女優になつて戻ってくる。カミーユと<未知の女>を演じるジャンヌ・パリバルは舞台と映画で活躍し、「そして僕は恋をする」などで知性派女優として知られていたが、初の来日で、美貌と菜目ついでイメーヅをくつがえした。

カミーユの愛人で劇団の座長ウーゴは、陽気でイタリヤ男らしい嫉妬深さで笑いを誘う「カボチャ大王」のセルジオ・カステリッ、トウゴにも、パリに来た秘密の目的があり、コルドニーの幻の戯曲を探す。

カミーユの恋ごころの謎は3年前に引かれた哲学者ピエールか。ピエールを演じるのはコタルの「カルメン」という名の女のジャック・ボナフエ。ピエールの現在の「妻」でバハイ教師のソニアには「女優マルキーズ」他のベルギーの演技派女優ソリアンヌ・バズレール。

共同提供= フランス映画社、①シネフィル・イマジカ
www.bowjapan.com

- ジャンヌ・パリバル、セルジオ・カステリッ、ジャック・ボナフエ、マリアンヌ・バズレール、エルク・ド・クージュ、ロリユ、ド・トラスキニ、カトリニス・ルガーヴェル、クロード・ベリ
- 監督= 脚本= ジャック・リヴェット、共同脚本= バスカル・ポニゼール、クリスティエス・ローラン、劇中劇原作= ピラネツォ、撮影= ウィリアム・リュブチヤンスキ、録音= フロリアン・エイデンベス、編集= ニコール・リュブチヤンスキ、音楽= フォール、歌= "SENZA FINE" ベキエーリー、美術= マニユ・ド・シゴゾイニ、衣装= ローラン・ストウリュユ、クリスティエス・ローラン、製作= マルティン・マリニヤク ● 2001年仏伊協合作フランス映画 / 製作= PIERRE GRISSE PRODUCTIONS, FRANCE 2 CINEMA、VM PRODUCTIONS, MIKADO, KINOWELT / 製作参加= CANAL +、COFIMAG 12、GIMAGES 4、CENTRE NATIONAL DE LA CINEMATOGRAPHIE / 製作協力= EURIMAGE、LA PROCIREP / カラー= 1x1.85、DTSステレオ、ドルビースR / 全8巻、4,227 M、2時間35分 / 日本語字幕= 藤田敦子、柴田縁 / 宣伝デザイン= 高寺菜穂、海老澤聖美 STRANGE FRUITS INC./ ©2001 PIERRE GRISSE PRODUCTIONS - FRANCE 2 CINEMA - VM PRODUCTIONS - MIKADO - KINOWELT ● 2001年カンヌ映画祭正式出品作品、2001年ニューヨーク映画祭オープニング特別招待作品 ● ベキエーリー "SENZA FINE" ("In Love Again: in the Name of Love" 東芝EMI: 輸入盤)

ウーゴのコルドニーを探しを助ける "ト" で登場するのはエレーヌ・ド・ラウゼロル。「青い夢の女」とカランを愛ごころとさわやかなお色気をふりまいて、ウーゴに恋ごころをさだめさせる。"ト" の異父兄アルチュールはベテラン師。ソニアは熱心にくどくどのは、彼女の年代ものの指輪が粗い。しかし舞台で見たカミーユにほんとうの恋をしてしまう。演じるのはパリス・シエロー監督「愛する者よ、列車に乗れ」のリュノ・トラスキニ。

6人の男女のおかしくしてせつない恋ごころのロンドを、ジャン・ルノワールの「草の上の宴」のカトリニス・ルガーヴェル、そして監督クロード・ベリが<筆跡鑑定家>の役で特別出演して彩りを豊かに深めていく。

「恋ごころ」の原題は「サテ・サテ・サテ」。フランスの日常会話でも時にしか使われないが、ニュアンスの豊かな言葉で、「この夏、あなた、どういう予定?」というような問いに、「ウーゴ・サテ・サテ」(その時にならないとわからない)と答える。

驚くべきみずみずしさ、 リヴェット魔術の集大成

監督ジャック・リヴェットは「美しき静い女」(91年カンヌ映画祭審査員特別グランプリ受賞)や「修道女」(66)、「セリヌとジュリエ」(94)でゆく「北の橋」(81)、2部作の超大作「ジャンヌ」(94)、「パリ」であり、(95)で知られるが、4時間超の「狂気の愛」(68)が12時間半の「アラント」(70)はフランスでも未公開、全貌が知られていない神秘的な作家だ。リヴェットは「リヴェットなしにはヌーヴェル・ヴァーヴは存在しなかった」と言ったが、長編第1作「パリ」はわれらの作品だ。薄口健二を敬愛し、誰よりも峻激な批評をおそれられ、60年代には<カイエ・デュ・シネマ>で評議議長として作家主義を徹底的にうちだした。コタルがリヴェットによる敬愛の祭さは「映画史」でも感動的だ。

そんな<リヴェット魔術>の最大の秘密は、台本なしに撮影することからにありそうだ。最初の段階で数員のシノプシスは存在したが、俳優がセリヌをうけとると、日連日撮影前後が当日朝、俳優が立候補して、リヴェットとヌーヴェル・ヴァーヴを重視して、即興性で全篇のドラマを展開する、まさに離れ技。「恋ごころ」はリヴェット魔術の集大成の傑作だ。

台本はリヴェットを中心に、「アンコル」で監督デビューしたボニゼールと、女優で監督のローランが撮影現場で毎日書き進め、ローランは演劇部分の衣装も担当。ピラネツォの演劇場面の撮影が行われたのは<シラノ・ド・ベルザック>の初演で有名なホルト・サン・マルタン劇場。撮影のリュブチヤンスキーをはじめとするリヴェットの常連スタッフをリードしたのは、81年「北の橋」いらいりリヴェット全作品を製作するマルティン・マリニヤク。

パリならではの、見逃せないおしゃしなたち。

リヴェットの映画では、パリは生き生きしている。と同時に、美しいローブや靴や小物など見逃せないおしゃしなたちが、次々に登場する。

学生時代に母上からプレゼントされたポーチ、サックも登場。
一流女優さんたちの私物コレクションが平気であらごちの、せいたくなく映画です。

年代ものの指輪は、ドラマの後半のカギ。
値段はいくらだろう。
男優3人の衣装は agnès b. homme の特別協力。さりげないシノバルが、男たちの恋ごころを際立たせる。

特なおしゃしなはお菓子にも、ラスト・シーンで、ウーゴのための心づくしの「悪い夢のチョココレート」、ケーキが登場する。それらが、なぜなのかは映画をご覧になる時のお楽しみ。

恋ごころ

un film de Jacques Rivette
ジャック・リヴェット監督作品

2002年2月上旬より

正月第2弾・独占ロードショー

日比谷・東宝映画街 03-3591-1511

シヤンテシネ

連日3回 012:20 03:30 06:40 (終映 9:35)

前売券 1,500円好評発売中
(当日一般 1,800円のところ)

- * 劇場窓口では<恋ごころ>包み紙>プレゼント付き。
- * TRANS COMMENTS 各ショップで「恋ごころ」フォト・ギャラリーを開催。

水曜レディースデー特別は、上映回数が少なく混雑が予想されますので、前売券の購入はごさいませんようお願いいたします。